

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 **建設事務事業**

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input type="checkbox"/> 有	
<input checked="" type="checkbox"/> 無	

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	大脇館線改良事業(主要事業)							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	街路・用地担当係長 堀田 彰
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	道路	コード	3 1 1
	項	道路・交通			単位施策(中)	幹線道路の整備	コード	3 1 1 1
					単位施策(小)	災害に強い幹線道路整備の推進	コード	3 1 1 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	都市計画道路大脇館線(L=160m) 1		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	都市災害時における、緊急輸送道路として活用できる災害に強い幹線道路の整備。 なお、主要事業の293mの内、未整備となっている国道1号交差点から桶狭間古戦場南側までの160mを供用できるよう整備する			
1-5 事務事業の内容	平成20年度供用開始を目標に、国道1号交差点から桶狭間古戦場南側までの用地買収(A=567.96㎡、古戦場区域は買収なし)及び改良工事を行う。 国道1号交差点を信号制御交差として整備するよう公安委員会及び国道管理者(名古屋国道事務所)と協議を重ねる。 また、国指定の史跡である桶狭間古戦場区域内においては、文化庁の承認を得るべく調査・指導を受ける。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	用地買収及び用地買収に伴う物件移転補償について、内容説明の効率化を図るためマニュアルを作成した。	地価の変動は下げ止まり観がある。安全安心に対する希望は上がっている。		この区間は、昭和60年代からの懸案事項で、最近では地元館区が最寄の名鉄中京競馬場前駅の南口(豊明市側出口)設置と相前後して要望が高まっている。	
	平成19年度	事務事業をより一層理解していただくため、近隣の方に事業内容の説明やその時々説明を行った。	事業内容について、知りたい・意見があれば言いたいという考えが出ており、情報提供可能な内容の見極めが必要。		"	
	平成20年度	本年度が最終年のため、事務事業の実績から成果指標を再計算した。	用地取得が一部残っているが、歩行者分離及び信号交差点の完成により安心安全な道路となる。		相互通行が可能で、安心して使用できる歩行者道の整備要望が高い	
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	都市計画道路整備率(%)		83.0(%)	84.0(%)	この事務事業の全体事業費を算出後、年度成果率を計算しその成果率にこの事業の整備延長(160m)を乗算し活動実績を算出する。この活動実績に整備済み値(19,077m)を加え都市計画道路延長(23,240m)で除算し前期目標値を算出する。後期目標は前期目標値を後期目標値で除算し達成率とした。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	活動実績 a(単位)	1.3(m)	31.9(m)	109.4(m)								
	直接事業費 b(千円)	2,186	52,450	180,122								
	人件費 c(千円)	7,372	8,008	2,650								
	合計コスト d(b+c)(千円)	9,558	60,458	182,772								
単位コスト d/a(千円)	1m当たり7,352	1m当たり1,895	1m当たり1,671	1m当たり	1m当たり	1m当たり	1m当たり	1m当たり	1m当たり	1m当たり	1m当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 →

H18実績	活動実績= 1.3m	人件費=6,702(千円)×1.1=7,372(千円)	指標対応実績= [1.3+19,077] m/23,240m=82.1%
H19実績	活動実績= 31.9m	人件費=6,673(千円)×1.2=8,008(千円)	指標対応実績= [31.9+19,077] m/23,240m=82.2%
H20実績	活動実績=109.4m	人件費=6,624(千円)×0.4=2,650(千円)	指標対応実績= [109.4+19,077] m/23,240m=82.6%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(%)	82.1	82.2	82.6							
	後期目標値に対する達成度(%)	97.7	97.9	98.3							

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A							

4段階評価結果
 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価																																
	平成18年度	生涯学習課とのタイアップによる文化財区域の確定。	文化財区域内工事の精査。移転補償対象となった物件について内容提示をどこまで表すか。	公安委員会及び道路管理者たる国道工事事務所との協議が終了。課題が残ったが文化財区域内工事の協議に至るための現地調査を終えた。	平成19年度	生涯学習課発注の文化財区域の確定完了。地元住民への広報方法の検討。	工事のために交通の流れをいかに制御するか。	一部において用地買収がこじれてしまったが、病院前の前倒し工事も病院の施工にあわせることができた。	平成20年度	拡幅工事で片側交互通行が出来たことが近隣住民及び通行車両など交通障害解消になった。	用地の未買収部分の取得に努力したい。	信号設置をするため、国道1号線を一部施工したが限られた時期の発注のなかで、無事施工を終わることが出来た。	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度		

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	目標達成につき事業完了。	
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			